

## 不可分の全体としての人生再検査

齋藤忠資

多数の臨死体験で人生再検査が見られる。そこで人生再検査の特徴について考察してみたい。

- ① 自分の全人生を再びたんに見るのではなく、再体験し吟味される。代表的な例をあげよう。

「私が言ったこと、行ったこと、考えたこと、五感を通して入ったすべてのデータが再検査された。」<sup>1)</sup>

「私がその時まで体験したすべての思考・感情・行動・ことばを人生再検査のイメージは含んでいた。また各要素の影響までも含んでいた。」<sup>2)</sup>

「私は今までに体験したすべての事に気付いた。」<sup>3)</sup>

「私の過去の人生の全てが再検査された。どんな細部も。そこには私の人生の全情報があった。私は人生の出来事をすべて理解することができた。すべての事に理由があること分かった。」<sup>4)</sup>

- ② 人生再検査では、臨死体験者の地上での人生のすべての場面が、一瞬のうちに再現されると同時に、人生における一つ一つの場面がはっきりと分節し識別できる。地上の人生の時よりも、人生再検査の時の方が、より詳しく吟味できたという例もある。すべての出来事が、時間上いつの事であっても、空間上どこの事であっても、同時に今起こるということは、人生再検査には時間と空間のへだたりがないということである。それは臨死体験者の意識が、物質界と時空を超えた世界にあるからである。しかも同時に一つ一つの人生の出来事を明確に識別し分節できるということは、不可分の統合的全体意識の世界と共通である。そこでは個人意識は肉体の死後も存続し、明確に分節できるが、すべての個人意識はバラバラにすることができない仕方で、全体として一つに統合されている。光の完全な全体意識の世界では、すべての出来事は、時間と空間のへだたりを超えて、バラバラにならない仕方で、全体として一体になって今起こる。すべての出来事と個（部分）の真のアイデンティティは全体にある。人生再検査ではこのことが臨死体験者の個人レベルで生じる。

マクタガートは、時間を1) A系列：主観的な、人間の時間・現在と言う視点に依存する時間、2) B系列：カレンダーや歴史的年表のような客観的時間。過去から未来へと順序に従って並んでいる時間。3) C系列：名簿のリストのように区分・順序・秩序はあるが、時間には関係しないという3つに分類し、相対性理論では光子には時間はなく、量子のミクロ系にも時間がないことから、A・B系列の時間は存在せず、C系列のみが存在し、従って時間は存在しないと結論している。<sup>5)</sup>

4次元時空連続体のブロック宇宙では、時間は空間化され過去・現在・未来の事象はすべて共存していて、分節はあるが、名簿のリストのように時間も歴史も存在しない。現在の視点から過去も未来も1望できる。ここでは時間の空間化が起こる。ビデオ・テープにはすべてのシーン（コマ）が分節され共存し、名簿リストのようにある順序に従って並んでいる。これは不可分の全体性である。ところが人間は現在と言う時点に制約されているので、1コマずつしか見ることができないために、時間が流れるように知覚される。走る電車の窓から外の景色を見ると、景色が次々と流れていくように見える。しかし自分が電車から降りて停止すれば、景色が流れることはない。人生再検査では時間の流れはないが、各人生のシーンは明確に分節されているので、マクタガートのいうC系列の名簿のリストは存在するが、時間は存在しないということになる。

時空の外量子物理の波動関数では、過去・現在・未来の全ての事象は、潜在的可能性として全体から切り離してバラバラにできない仕方で共存している。量子物理の非局所性は、時間と空間のへだたりを超えて一体に結合している。時空内では右回りと左回りに分離する潜在的可能性を持つペアのスピンのもつ二つの粒子は、測定すると時空内では右回りと左回りのスピンの分離するが、時空外の波動関数では、右回りと左回りの分離はなく、一つの全体として共存している。時空外の量子物理のコヒーレンス（干渉性）では、確率のポテンシャルの不可視の波が干渉し合っている。波は共存（共振）することも、分離することもできる。波は共存（共振）している時は、バラバラにできない仕方で全体として一体になっているが、時空内では、デコヒーレンス（干渉性の消失）状態になると、それぞれの波は全体から分離して、粒子化し物質化する。また光の振動数の違いによって7色を生じさせるので、7色に分節・識別は出来るが、振動数全体として一体の光の状態では、無色透明である。4次元時空のホログラムも時間と空間のへだたりを超えて、ホログラムの全ての部分（個）は全体として一つになっている。例えるならばオーケストラの音楽のように、個々の音色は分節できるが全体から切り離すことは出来ない。（時間の流れを伴うが）一枚の絵も、個々の色に分節・識別は出来るが、全体から切り離すことは出来ない。（空間のへだたりを伴うが）音楽も絵も多数の音と色がバラバラにできない仕方で、一つの織物を形成している。人生再検査でも、人生の各シーンは明確に分節できるが、全体として一体であり、時間と空間のへだたりを超えて、今ここで一瞬のうちに再現される。典型的な例を引用しよう。

「高次元ではすべての時間は、出来事の一つの統合された一連の出来事であり、過去・現在・未来は高次元では並んで共存している。」<sup>6)</sup>

「すべては同時に起こったが、人生の1コマ1コマは区別された仕方で、私の全人生を再体験した。」<sup>7)</sup>

「人生再検査はすべて猛スピードで起こったが、それぞれのシーンは通常のペースで起こった。」<sup>8)</sup>

「光の存在が私の全人生を瞬時に示した。すべてが同時に示されたが、それぞれのシー

ンは独立していて、混在されてはいなかった。」<sup>9)</sup>

「私の霊の目の前で、私の人生は一つの統合された全体として再現した。映画のように順序に従って展開したのではなく、全人生がすべてそこにあった。細部に至るまで、現在の記憶と言う仕方です。」<sup>10)</sup>

「人生再検査は瞬時に生じ、時間はなかった。それぞれのシーンは詳細で鮮明であった。スナップ写真が時間の枠なしに、瞬時に再現した。」<sup>11)</sup>

「人生再検査は、私が人生のそれぞれの出来事に同じ瞬間に気付いているかのように生じた。それは時間を超えて存在できる一つの明るく照明する点へと、私の人生の線的スパンが強化された。すべての瞬間が同時に起こった。」<sup>12)</sup>

自分の全人生のそれぞれの出来事を同時に見るということは、4次元時空連続体のブロック宇宙のように、過去・現在・未来の出来事を時間の区別なしに、360度のパノラマのように一度に見るということにある。脳と肉体を超えた臨死体験者の意識は、肉体の感覚器官がなく、光の球体になっているので、空間の制約がなく方位もないので、周りの世界を同時に360度パノラマのように見ることができる。自分の全人生を一度に、しかもそれぞれの出来事をはっきりと分節した仕方で見ることができる。代表的な例をあげよう。

「大きな球体の内側で、私の全人生がすべての方向で、同時に多くの映画のように映し出される。私の人生でのそれぞれの出来事は互いに結合している。私は上下・前後・左右を同時に見る。他の命と結合した人生の全体験。全人生が一度に起こると同時に、人生のそれぞれの出来事を私は体験した。すべての出来事を同時にかつ順序通りには、3次元界では理解できない。私の全人生を瞬時にかつ個別的に体験した。人生の順序も分かる。それは永遠の今である。」<sup>13)</sup>

「自分の全人生を360度のパノラマの仕方で見ることができた。」<sup>14)</sup>

「私は光の球体になっていて、人間の姿形はしていなかった。私の意識は球体で一度に全方向が分かった。私はすべてを知ることができた。私の全人生が同時に細部まで見えた。」<sup>15)</sup>

「トンネルを通過すると、巨大な球体のセンター内に、私は浮かんでいた。球体内はスクリーンになっていて、数百の映画が同時に全方向で私の全人生を上映した。すべての経験を。私は同時に全人生を見た。全人生は互いに結合していた。私が焦点を合わせると、私はすべての思考・言葉・行動を再体験した。私の過去が現在となった。(永遠の今) 私の人生の出来事が360度同時に左右・上下に、個の球体のいたるところで起こった。」<sup>16)</sup>

- ③ 臨死体験では、光の完全な全体意識は宇宙全体の全情報センターになっている。これはアカシック・レコードであり、図書館としてイメージされることが多い。人間の場合は生命の書としてイメージされる。光の存在は全体意識と分離できない仕方になっていてるので(統合的全体意識)、光の存在は他の全ての光の存在と情報を共有し、全

情報を備えている。従って光の存在は、臨死体験者の全てを知っている。この光の存在の臨在の下で、人生再検査が行われる。典型的な例を引用しよう。

「光の存在は、私の人生のすべてを知っていた。すべての人生は記録されていた。光の存在は私が考えていることを正確に分かっていた。光の世界ではすべてが明らかにされていて、隠されているものは何もない。」<sup>18)</sup>

「光の存在は私の思いと私がしたことをすべて知っていた。私がどんな人間かを覚えていた。」<sup>19)</sup>

「光の意識は、私よりも私のことをよく知っていた。」<sup>20)</sup>

「死んだ母は、私に起こったすべての出来事を知っていた。」<sup>21)</sup>

「同伴者が出現し、“私は長い間あなたと同伴してきた。私はあなたのしてきたすべてのことを知っている。”と言った。」<sup>22)</sup>

「光は私がかつてなしたこと、またこれからする決断をすべて知っていた。」<sup>23)</sup>

- ④ 人生再検査では、脳と肉体を超えた臨死体験者の意識は、時間と空間のへだたりを超えて、主体と客体の分離なしに、自分の人生で出会ったすべての他者と一体になるので、過去の自分のなした言行が、どのような影響を相手に与えたかが、相手の立場になってわかる。(統合的全体意識)相手の立場になるので、他者が完全に理解できるようになる。代表的な例を引用しよう。

「360度のパノラマ・ホログラムの形で—私はかかわりあったすべての人になった。人々との出会いを体験しなおしながら、私は相手の気持ちを厳密にそのまま味わった。猛烈な良心の呵責を感じた。そしてもっと親切な人間として、生きればよかったと願った<sup>24)</sup>

「相手になってその時の出来事を再検査した。相手の気持ちが完全に分かった。」<sup>25)</sup>

人生再検査の時、私が他者になした苦痛を、他者に成り代わって感じた。」<sup>26)</sup>

「人生再検査の時、私の言行によって引き起こされた他者の思いを、彼らになって私は味わった。私の行為によって生じた他者の苦しみと喜びを体験した。」<sup>27)</sup>

「人生再検査の時、私は私の内に他者の全ての思いを抱いているかのように、その出来事に巻き込まれているすべての人の思いが分かった。すべての他者の目を持って、私は見ているかのように。」<sup>28)</sup>

「他者の視点から、順序を追って私の人生が再現された。イメージのみではなく感情も味わった。他者の気持ちを味わった。私の行為が他者にどのように影響したかが分かった。」<sup>29)</sup>

「私の人生に関わったすべての人の気持ちを体験した。自分の言行が他者にどのように影響したかが分かった。意識の高いレベルでは我々は皆結合している。」<sup>30)</sup>

「人生再検査の時、私がその時他者にどのような気持ちをもたらしたかを経験した。」<sup>31)</sup>

1)

「人生再検査の時、他者の視点から私の言行が他者にどのような影響を与えたかが分か

った。」<sup>32)</sup>

「言葉と行為のみでなく、他者への影響が分かった。他者をどれほど傷つけたかもわかった。」<sup>33)</sup>

「私は私の言行によって、他者が受けたのと同じ感情の痛みを受けた。私は後悔した。」<sup>34)</sup>

「人生再検査の時、私がいかに他者になすべきことをやり過ぎたかを見た。私が持っているものを用いて、私がなすことができることが多くあることが分かった。」<sup>35)</sup>

「光の存在達と出会った時、人生再検査をし、動物や植物を含めた他者を自分のこととして体験した。自分の言行が他者にどのように影響したかが分かった。光の前で、エゴとうそは見逃されることはなく、後悔と恥を感じた。すべてのものは一体である。」<sup>36)</sup>

- ⑤ 人生再検査は光の存在の下で行われる。光の存在はどのような過ちを犯した人であれ、あるがままに無条件に受け入れ、一切さばいたり咎めたり罰を下したりすることはない。人生再検査は、光の存在の無条件の慈しみ（受け入れること）の実証である。裁き善悪の下に行われるが、人生再検査では善悪は問題ではなく、無条件の慈しみ（受け入れること）が問題なのである。光は受け入れが、人間が裁くのである。典型的な例を引用しよう。

「光の存在は人の心を和ませる愛の光を放っていた。人生再検査で見せられた欠陥だらけの私を、寛大に裁かず、他者に与えた痛みを反省させ、慈愛で包み込み、何も要求しなかった。」<sup>37)</sup>

「宇宙の意識体系の中には、善悪を区別する仕組みがない。宇宙は光・闇や善悪の違いを認識しない。善悪の区別は生まれながらの知識であり、私達自身が裁判官である。人生において他者との関係で生じるトラブルに対して、私たちは責任がある。私たちはすでに持っている霊的な知恵の適切な使い方をマスターするという、ただ一つの目的をもってこの世に生まれてきた。」<sup>38)</sup>

「私は光の存在からたとえようもなく大きな愛があふれ出していることに気付いた。その愛の下に留まっていたと思った。そしてそこに留まり、光の存在とともに、自分のそれまでの人生をこと細かく一つ一つ再検査した。光の存在は裁くようなことは一切しなかった。ただわたしに無条件の慈愛を注ぎ続けただけでした。私は自分を弁護する必要もなければ、弟に罪をかぶせて非難する必要もなかった。過去をより良いものに見せかける必要もなかった。すべてはあるがままでよかった。よいことも悪いこともすべてあるがままに受け入れてもらうことができた。光の存在はお前はこうすべきだったと諭すようなことは一切言わなかった。モラルを強制するようなことはしなかった。」<sup>39)</sup>

「自分の人生を光の存在の無条件の慈愛の下で、再検査した。裁きはなく、正義と言う視点もなかった。」<sup>40)</sup>

「人生再検査の時、光の存在は私の痛みや悲しみにすべて共感し、裁くことなく私を理解してくれた。」<sup>41)</sup>

「神は私の人生の全てを全面的に受け入れた。私が自分を裁くのをやめるようにした。神は決して裁かなかった。善も悪もなかった。」<sup>42)</sup>

「人生再検査の間、光の存在は私が多くの過ちを犯してきたが、私を裁くことはなかった。光の存在は無条件に私を愛してくれた。」<sup>43)</sup>

「人生再検査の時、私の多くの欠点や過ちにもかかわらず、光の存在は私を裁くことなく、無条件に受け入れてくれた。」<sup>44)</sup>

「人生再検査の時、私は無条件の慈愛を持つこの崇高なエネルギーと一体になった。そこには罰も咎めもなかった。」<sup>45)</sup>

「善悪は人間の視点に基づいた人間の判断であり、光の源に正誤や善悪と言う概念はない。我々の体験はすべて受け入れられる。」<sup>46)</sup>

「人間は善悪や正誤によって裁く。自分が尺度になってすべてを判断する。条件付きで相手を受け入れる。相手によって左右され、自分の利益を絶えず計算に入れる。これに対して光の存在はすべてをありのままに受け入れる。相手によって左右されることはない。自分の利益を計算することはない。すべての人が統合的全体意識のメンバーであり、不可分の全体を構成しているので、すべての人が受け入れられる。」<sup>47)</sup>

- ⑥ 人生再検査では、光の存在が臨死体験者を裁くことはないが、臨死体験者が自分を裁いて反省し、心から悔い改める。光の存在は臨死体験者が自分を厳しくさばかないように促す事例もある。自分は光の存在によって無条件に愛されているのに、臨死体験者本人は他者を厳しくさばき、許すことがなかったことを心から反省する。人生再検査では、いかに無条件の愛を持って他者に接してきたかが問われている。光の存在にとって何よりも大切なのは無条件の愛であることが分かる。そして無条件の愛を持って他者も自分も受け入れることがかなめであることを学ぶ。代表的な例をあげよう。

「人生再検査の時、光の存在が私とともにいて愛で包んでくれた。裁きはなかった。自分で自分を裁いた。」<sup>48)</sup>

「神は私を裁かなかった。神は無条件の愛で我々を愛している。私だけが裁くものであった。」<sup>49)</sup>

「人生再検査の時、光は私を決して裁くことはなかった。私は自分で自分を裁いた。」<sup>50)</sup>

「人生再検査の時、裁きはなく、私が自分を裁いた。」<sup>51)</sup>

「人生再検査の間、私は無条件の愛によって受け入れられた。裁きはなかった。自分以外に私を裁く者はいなかった。」<sup>52)</sup>

「人生再検査の時、私の行いが他者にどのように影響を与えたかを感じた。しかし光の存在は裁くことはなかった。さばいたのは自分自身であった。」<sup>53)</sup>

「ガイドは愛を持っていたので、私を裁かなかった。私は自分で自分を裁いた。ガイドは厳しく自分を裁かないようにと言った。」<sup>54)</sup>

「私を裁いたのは、私だけであった。光の存在の無条件の愛に対して、私は他者を裁く

ということで報いたことが、人生再検査で示され、私はとても恥じ入った。」<sup>55)</sup>

「光の存在の愛に包まれて、被害者の立場に立って、人生再検査を体験して、自分のエゴイズムを反省した。光の存在は私に害をおよぼした人すべてを許すようにと言った。」<sup>56)</sup>

「人生再検査によって、光の存在から、他者に寛大になり、他者があるがままに受け入れ、自分を偽ることなく、ありのままに受け入れることを学んだ。」<sup>57)</sup>

「人生再検査の目的は裁くことではなく、他者への思いやりを学ぶことにある。他者を傷つけることは自分を傷つけることである。」<sup>58)</sup>

「光の存在は、今私がつつまれている愛を、今まで他の人々に示してきたかを、人生再検査で私に反省させた。」<sup>59)</sup>

「光の存在が私の人生再検査の時、関心を持っているのは愛である。隣人が食べ物や着物のことで困っていたら、すぐに手を差し伸べるような愛である。」<sup>60)</sup>

「光の存在が私に望んだのは、人を決して差別しないような愛であり、その人の欠点を含めて、その人を愛せるかどうかを尋ねた。」<sup>61)</sup>

「光の存在は私を無条件に愛している。人生再検査では、この光の愛を投射することが要であることが分かる。他者が私から愛を受けたのか、害を受けたのかが問題になる。」<sup>62)</sup>

「光の存在は人生再検査で、我々がこの世で大切と思っていることよりも、親切な行為の方が大事であることを示した。」<sup>63)</sup>

「光の存在は、人生で本当に大切なものは、愛であることを、人生再検査で私に示した。愛なしになされたことは実在ではなく、愛のみが真の実在である。」<sup>64)</sup>

「この地上で出会う人々とは、我々がスピリットの世界でも、最も密接に結び合っている魂である。我々は光の愛のエネルギーによって作られている。この事を学ぶまで、我々はこの地上の人生で心が完全に満たされることはない。」<sup>65)</sup>

- ⑦ 人生再検査では、時間と空間のへだたりを超えて、すべてのものは完全に相互に結合していて、バラバラにすることができない仕方で、一つの全体として一体になっているが（万物一体）、臨死体験者個人のレベルで示されている。他者を傷つけることは、自分を傷つけることである。この世界の人生は、無数の糸が織りなして作られている一つの大きな織物に他ならない。そしてすべてのものを一つに結び合わせているのは、無条件の慈愛である。典型的な例を引用しよう。

「人生を再検査した時、私の行為によって影響を受けた人々の気持ちが分かった。我々一つである。ここで体験できるのは愛のみである。愛のみがすべてである。私の本質は愛である。我々は皆結び合っている。命は愛であり、愛は命である。宇宙の全ての原子も、愛によって結合している。」<sup>66)</sup>

「人生再検査で我々は皆宇宙と一つであることが分かった。他者を傷つけることは、自分を傷つけることであり、宇宙の全ての魂を傷つけることである。」<sup>67)</sup>

「私は自分の人生を再検査した。私の行いがどのように影響したかを体験した。すべての人間、すべての思考、すべての行い、すべての言葉は結合している。それは多くの次元に存在する星の巨大なクモの巣に見えた。」<sup>68)</sup>

「人生再検査では、過去・現在・未来の全ての他者と結合している。」<sup>69)</sup>

「光の小さな点の中央に、赤子の私がいた。蜘蛛の巣のように光は全方向に広がっていた。その蜘蛛の巣では、すべての糸が多くの人々と出来事の因果関係で結合されていた。糸は互いに解きがたく結ばれていた。それは私の人生の様々なステージを結合し、私の人生の蜘蛛の巣を織成し写像していた。私の蜘蛛の巣は他の蜘蛛の巣と一つであった。それぞれの蜘蛛の巣は糸でつながっていた。私の前には巨大な蜘蛛の巣があった。私は初めて私の全人生の同時パノラマを見た。」<sup>70)</sup>

人生再検査では、臨死体験者は時間と空間のへだたりを超えて、人生で出会った他者と1体であることを知る。そして人生再検査の要は無条件の慈愛であることを学ぶ。光の存在は無条件で臨死体験者を受け入れ、裁くことはしない。そのような慈しみを他に（人間のみでなく他の生き物にも）示してきたかが問われる。他を愛することは自分を愛することであり、他を傷つけることは自分を傷つけることである。真の實在は無条件の慈しみのみであり、無条件の慈愛しか究極的には残らないことを知る。無条件の慈しみこそ、すべてのものを結びつける絆に他ならない。その意味で人生再検査は、個人レベルでの光の無条件の慈しみの実証である。

- ⑧ 光の本源は、我々をコントロールしないし、この物質界でネガティブの事に出会わないように守護したりはしない。車の事故や病気で我々は死にかかる。しかし我々に地上でまだ使命がある場合には、光の存在は介入してきて、我々を地上に戻す。「光の源は我々の行動をコントロールはしない。光の源は我々がネガティブな体験をしないように、我々を守ることはしない。」<sup>71)</sup>

## まとめ

臨死体験の光の完全な全体意識は、すべての部分（個）と事象が完全に互いに結合しあって共存し、部分や事象がバラバラにすることができない仕方で、一つの全体として一体になっている。（万物一体・Oneness）部分と事象には分節はあるが、境界はなく真のアイデンティティは全体にある。時間と空間のへだたりはないので、未来も過去もすべての事象は現時点で起こる。（永遠の今）空間のへだたりがないので、主体と客体の分節はあるが、バリアはない。固定した場所（位置）・形・サイズ・方角もなく、従って固定した身体や物体も存在しない。時間と空間のバリアがないので、すべての事象が全体として一つになって、同時に今ここで起こる。しかもこの事象は分節できる。すべての事象を全体として一つに結合しているのは、愛に絆である。無条件の慈しみこそ光の完全な全体意識の本質である。このような光の統合的全体意識の本質が、脳と肉



体を超えた非局所意識にシフトした臨死体験者の人生再検査に、臨死体験者の個人レベルでみられる。人生再検査は臨死体験者の個人レベルでの光の統合的全体意識のミニチュア版に他ならない。光の統合的全体意識は、臨死体験者に関する全情報を持っているので、人生再検査を生じさせることができる。人生再検査では、時間と空間のへだたりを超えているので、人生のすべての事象がバラバラにできない仕方で、一つの全体として同時に生じる。しかも人生の個々の出来事ははっきりと分節できる。空間のバリアがないので、人生においてかかわった他者の立場になって、自分の言行の影響を再検査できる。人生に関わった他者は、同じグループに属するメンバー（ソウルファミリー）であり、統合的全体意識として物質界での情報を共有し合っていることが分かる。人生再検査では、すべてのものが互いに解きたい仕方で織りなされている一つの織物のように一体になっていることが分かる。

## 註

- 1) N.L.Danison,Backwards,APLee & Co.,San Diego,2007,244
- 2) [www.iands.org/nde-archives/experiencer-accounts/childing.html](http://www.iands.org/nde-archives/experiencer-accounts/childing.html)
- 3) [www.nderf.org/roger-m's-nde.htm](http://www.nderf.org/roger-m's-nde.htm)
- 4) R.Wallace,The Burning Within,Gold Leaf Press,1994,91~92
- 5) 橋元淳一郎、時間はどこで生まれるのか、集英社、2006,20~22.72~84.116
- 6) A.Suleman,A Passage To Eternity,Amethyst Publishing,2004,31
- 7) [www.iands.org/publications/vital-signs/67-vs-25,no1-petro.htm](http://www.iands.org/publications/vital-signs/67-vs-25,no1-petro.htm)<sup>2</sup>-shoiv  
all-1
- 8) L.E.Tooley,I Saw Heaven,Horizon Publishers & Distributers,1997,85
- 9) [www.nderf.org/lisa's-nde.htm](http://www.nderf.org/lisa's-nde.htm)
- 10)N.L.Danison,Backwards
- 11)W.R.Miller, I'm an NDE.Are You an NDE?,Xulonpress,2003,20.23
- 12)[www.nderf.org/bryan-z7s-nde.htm](http://www.nderf.org/bryan-z7s-nde.htm)
- 13)A.Petro,Remembering The Light,Outskirts Press,2011,4.21.22
- 14)D.Brinkley,On being saved by the light,interviewed by  
C.Adams,[www.creatrixstudio.com/artdanbrink.html](http://www.creatrixstudio.com/artdanbrink.html)
- 15)[www.nderf.org/robert-c-nde.htm](http://www.nderf.org/robert-c-nde.htm)
- 16)[www.nderf.org/andrew-p's-nde.htm](http://www.nderf.org/andrew-p's-nde.htm)
- 17)[www.iands.org/nde-archives/experiencer-accounts/childing.html](http://www.iands.org/nde-archives/experiencer-accounts/childing.html)
- 18)[www.nderf.org/jesse-n's-nde.htm](http://www.nderf.org/jesse-n's-nde.htm)
- 19)[www.nderf.org/jesse-n's-nde.htm](http://www.nderf.org/jesse-n's-nde.htm)
- 20)[www.dharma-talks.com](http://www.dharma-talks.com)

- 21) J.Michels,Berichte von der Jenseitsschwelle,Goldmann  
Arkana,2008,29^30
- 22)J.Berichte,188
- 23)A.Petro,Rememnbering,5
- 24)D.ブリンクリー、光の秘密、ナチュラルスピリット、2013,21
- 25)S.S.Farr,What Tom Sawyer Learned From Dying,Hampton Roads  
Publishing Company,1993,30
- 26)[www.ndeweb.com/board170.htm](http://www.ndeweb.com/board170.htm)
- 27)[www.nderf.org/lina's-nde.htm](http://www.nderf.org/lina's-nde.htm)
- 28)Pim van Lommel,About the continuity of consciousness,in C. Machado  
& Shewmon,D.A.(eds) Brain Death and Disorders of  
Consciousness,Plenum Publishers,2004,115~132
- 29)[www.dharma.talks.htm](http://www.dharma.talks.htm)
- 30)B.Harris Whtfield,Final Passage,Health Communication,1998,4
- 31)[www.nderf.org/susan-a's-nde.htm](http://www.nderf.org/susan-a's-nde.htm)
- 32)[www.nderf.org/jean-r-nde6166.htm](http://www.nderf.org/jean-r-nde6166.htm)
- 33)[www.nderf.org/robert-c-nde.htm](http://www.nderf.org/robert-c-nde.htm)
- 34)[www.nderf.org/casper-nde.htm](http://www.nderf.org/casper-nde.htm)
- 35)R.Wallace,Burning,92~
- 36)[www.nderf.org/justin-u-nde.htm](http://www.nderf.org/justin-u-nde.htm)
- 37)D.ブリンクリー、未来からの帰還、同朋舎出版、1974,41~42
- 38)D.ブリンクリー、光の秘密、22
- 39)立花隆、臨死体験上、文芸春秋、1994,388
- 40)S.S.Farr, Tom Sawyer,31.37
- 41)S.Rogers,Lessons From The Light,Warner Books,1995,はしがき
- 42)B.Harris Whitfield,Passage,10
- 43)[www.nderf.com/lisa's-nde.htm](http://www.nderf.com/lisa's-nde.htm)
- 44)[www.dharma-talks.com](http://www.dharma-talks.com)
- 45)J.Cleveland,Dancing With God,Author House,2004,90
- 46)N.Danison,Backwards,57
- 47)N.Danison,Backwards,131~132
- 48)Y.Perry,More Than Meets the Eye,2004,44
- 49)[www.nderf.org/leonard-nde.htm](http://www.nderf.org/leonard-nde.htm)
- 50)[www.nderf.org/casper-nde.htm](http://www.nderf.org/casper-nde.htm)
- 51)T.Cohen,The Day I Died,John Blake Publishing,2006,229
- 52)[www.nderf.org/jean-r-nde 6166.htm](http://www.nderf.org/jean-r-nde 6166.htm)

- 53) [www.neardeath.com/forum/nde/001/43.html](http://www.neardeath.com/forum/nde/001/43.html)
- 54) [www.aleroy.com/board106.htm](http://www.aleroy.com/board106.htm)
- 55) N.L.Danison, Backwards, 245~246
- 56) D. ブリンクリー、未来、20~34.216~223
- 57) [www.dharma-talks.com](http://www.dharma-talks.com)
- 58) R.Kruger, A Higher God, PublishAmerican, 2005, 29
- 59) K.Ring, Heading Toward Omega, Quill, 1984, 71
- 60) R.A.Moody, Reflections on Life After Life, Bantam Books, 1977, 96
- 61) R.A.Moody, Reflections, 95~96
- 62) [www.nderf.org/teri-r-nde.htm](http://www.nderf.org/teri-r-nde.htm)
- 63) R.Pasarow, www.spiritualtravel.org
- 64) [www.nderf.com/lisa's-nde.htm](http://www.nderf.com/lisa's-nde.htm)
- 65) [www.nderf.org/martine's-probable-nde.htm](http://www.nderf.org/martine's-probable-nde.htm)
- 66) [www.nderf.org/mark-j's-nde.htm](http://www.nderf.org/mark-j's-nde.htm)
- 67) [www.nderf.org/virginia-d-nde.htm](http://www.nderf.org/virginia-d-nde.htm)
- 68) [www.nderf.org/dan-b-nde.htm](http://www.nderf.org/dan-b-nde.htm)
- 69) [www.nderf.org/cynthi-k's-nde.htm](http://www.nderf.org/cynthi-k's-nde.htm)
- 70) [www.nderf.org/nde.Experiences/bell.k.nde.htm](http://www.nderf.org/nde.Experiences/bell.k.nde.htm)
- 71) N.Danison, Backwards, 57